

朝倉市

# 松末復興かわら版

## 筑後川右岸流域河川砂防復旧技術検討委員会報告書 赤谷川・国のモデル事業として再生

2017年12月9日土曜17時半より、旧杷木町生涯学習センターらくゆう館

### 1部 計画概要

7月の九州北部豪雨では河川が土石流と洪水で甚大な被害が発生したが、今回は中小河川による大災害となったことが注目とされていた。そのため国交省九州地方整備局福岡県による「筑後川右岸流域河川砂防復旧技術検討委員会」が9月から4回開催され、11月22日にその内容が発表されていた。この報告について福岡

県朝倉県土事務所、黒田課長から概要の説明があり、続いて九州大学の島谷教授の方から補足説明が行われた。①今後赤谷川は50年に1度の豪雨に耐えるように設計される。通常の河川はそれより低い10年に1回などで設計しているため、赤谷川は現在よりも河道断面は大きくなる。②余裕高を含めると今回の豪雨の水量にも耐える断面となるが、それは土砂と流木が上流には水位計を設置しなくても避難に間に合わないとの声があった。

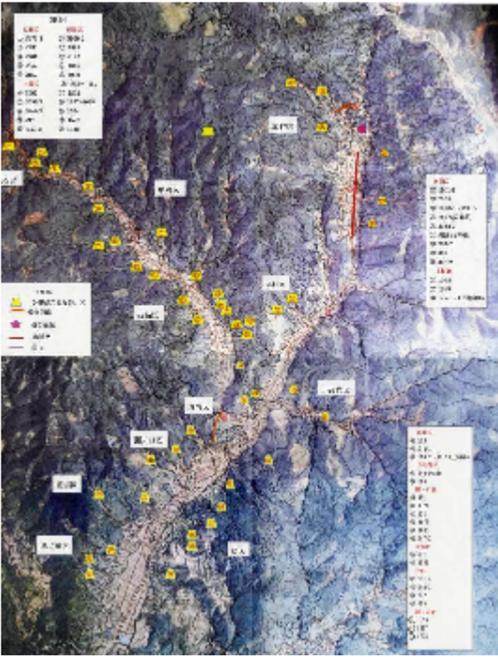
## 松末11集落からの提案

松末地区の11集落から、今後の豪雨時に危険と思われる箇所と今後整備すべき避難路や避難場所を掲載した地図が学習会の場で行政側に提示された。

本学習会で松末住民から「地域危険箇所・避難路など提案地図」が行政側に提出され、伊藤睦人会長より内容の解説があった。

この地図は松末11集落が、10月から行われた各集落会議で列挙されたものを、松末地域コミュニティ協議会で集約したものである。

内容は11月末現代で、崩落の危険がある沢が53箇所、新設したい避難路が2経路、県道の直線化が1箇所、避難所の新設がい箇所と



松末11集落から行政に提出された危険箇所地図

### 2部 進捗状況と質問

第2部では各部署から進捗状況の報告があり、まず国交省から河川と砂防の応急復旧状況についてスライドを用いながら説明があった。

次に県土事務所河川課からは、現在応急工事だが本工事でも国に代行していただくが、地元との協議においては県も一緒に入って進めたい。

また朝倉県土砂防からは、県でやっている砂防事業は国が代行している。県では急傾斜地の事業を展開している。松末地区では4箇所あり、現在調査段階。また正信川についても1箇所砂防ダムを進めおり、具体的には星丸地区、正信地区、小学校裏の真竹地区、倉

谷地区、安谷―赤谷線の県道の分かれ目」で事業を進めている」と説明。それに対して①「なんで城屋根に遊砂地なのか。②小学校の52号線の橋の改良が先では。③仮設の対応だというのが来年の梅雨に間に合うのか。下流のものには不安が大きい。④本村の砂防はどうなっているのか?については今は緊急的な対応が優先されているのでは。との質問が出た。

それに対し国交省砂防からは、場所についてはなるべく下流で止めたほうが堰堤の効果が大きい。また狭いところのほうに効果が大きい。また52号線の橋までは距離はあるとの回答があった。それに対して九州大学の三谷教授が、九大とし



会場には約100名の地域住民が参加した。

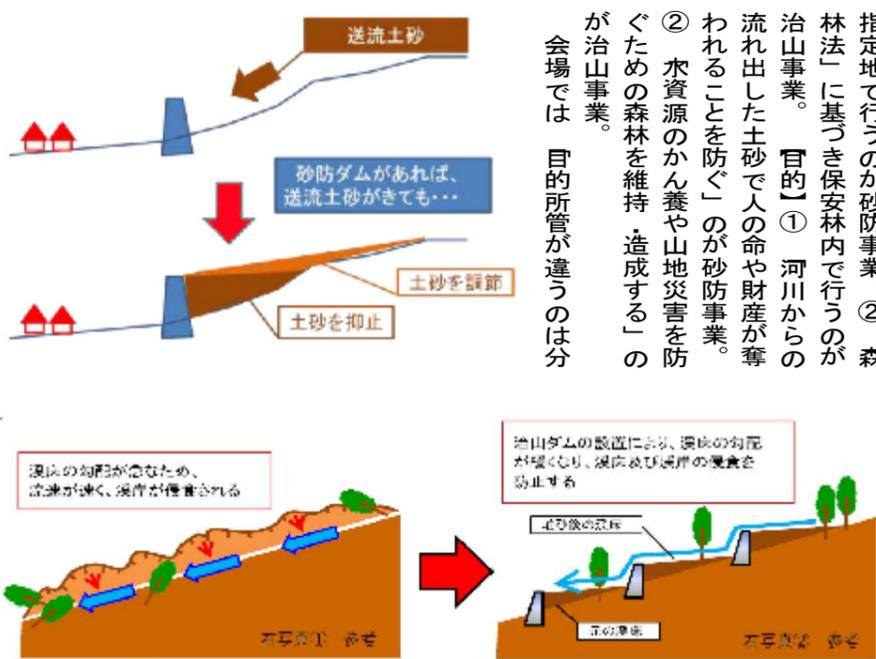
### 3部 危険箇所の提案

伊藤睦人会長から、配布資料について「これらは城屋根にくるのは納得していない。もう少し上にならないと、中村乙石は孤立するではないですか?もう少し調査して計画できたなら説明はいいと思います。」との意見があった。

## 砂防と治山のちがいが

伊藤睦人会長から、配布資料について「これらは城屋根にくるのは納得していない。もう少し上にならないと、中村乙石は孤立するではないですか?もう少し調査して計画できたなら説明はいいと思います。」との意見があった。

伊藤睦人会長から、配布資料について「これらは城屋根にくるのは納得していない。もう少し上にならないと、中村乙石は孤立するではないですか?もう少し調査して計画できたなら説明はいいと思います。」との意見があった。



(図上) 砂防ダムは下流域の家屋などを土石流から保護するために設置される。  
(図下) 治山ダムは、土石を貯めることで斜面の崩落を防ぐため、除石作業は行わない。

### 伊藤睦人会長より

今回1部で解説された技術検討委員会報告書も目標が数値や抽象的な文言だけでは、具体的な対策が必要となることを提案しました。提案の中には必ずしも災害復旧ではない所もある。砂防ダムが壊れていれば災害復旧になるが、今後の村づくりの中で中間の安全対策も必要なのではないですかというの、第3部の提案です。たとえば星丸は乙石に比べて山の傾斜が緩やかだから行政は緊急度が高いところから計画しているとの回答です。そこで計画から漏れないように、第3部提案で住民からの要望を上げました。ダムにするのか、植林にするのかどんな方法にするのかは今後の相談になるかもしれないが、とにかく検討はしてもらわなくてはならない箇所を上げています。

また別な面では、砂止め堰堤が出来た後に、その管理道路が要ります。それを住民の生活道路として残すことも可能だと思ふ。また赤谷のSカーブは災害を受けていない。しかし3月までに街づくり復興計画を作る。それにキチンと落とし込みたいために、3部の提案に入れていく。こういった趣旨の学習会であったことを参加なさった方は、帰って家族や親戚に話してほしいです。